



大清水中だより

教育理念 自由と責任
教育目標 『感謝 努力 創造力』

2022年2月22日発行 2月号の2 <http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/johsh/> TEL 0466-50-8353
藤沢市立大清水中学校 〒251-0002 藤沢市大鋸 1400 校長 百武 三郎

これまでも、これからも ～感謝と応援の気持ち～

2020年12月、コロナ禍が猛威を振るい医療現場が大混乱する中で、何とか医療関係者に感謝の気持ちを伝えられないだろうか、入院している患者さんや医療現場で働く人たちを応援できないだろうかと考え、大清水中学校では音楽室と体育館の窓に模造紙に書いたメッセージを掲げました。その後、市民病院の窓にも感謝のメッセージが掲げられ、2021年2月には多くのメディアでも報じられました。

あれから1年。私たち大清水中学校の思いは変わりません。入院患者さんの一日も早い回復を願い、懸命に働く医療関係者の皆さんに感謝と応援の気持ちを届け続けます。

千羽鶴プロジェクト

昨年度の模造紙に書いたメッセージは、生徒会本部のメンバーが中心となって取り組みました。今回の取り組みでは、生徒会本部の呼びかけによって、大清水中学校の生徒全員が折り鶴を作るという作業で参加しました。全員の思いを届けたいという生徒会本部の願いがそこにありました。

コロナ禍で全校生徒が集まることができない状況ですが、ICTによるリモート集会で生徒会本部役員から千羽鶴プロジェクトの趣旨と具体的な取り組み方法について説明がありました。朝の時間や昼休みを使って全校生徒が一人1羽以上の鶴を織り上げ、本部役員が丁寧にそろえて箱へと納めました。この後、学年末テストが終わってから市民病院へと届ける予定です。

倅せの黄色いハンカチプロジェクト

山田洋二監督の「幸せの黄色いハンカチ」をヒントに、校長の思い付きで始めたこのプロジェクト。この倅せの黄色いハンカチには大清水中学校の保護者や生徒、職員だけでなく、藤沢清流高校の皆さんや大清水小学校の皆さん、1年生がお世話になった八ヶ岳野外体験教室の皆さんやスキースクールのインストラクターの皆さん、そして体育館の改修工事をして下さっている神南工務店の皆さんもメッセージを書いて下さいました。1月号にも書きましたが、医療関係者に感謝の気持ちを伝えたくったり、患者さんを励ましたくったりするが、どうすればいいかわからないという方が少なからずいらっしゃるということがわかりました。人は心の中で思うとともに、それを何らかの行動で表したいものです。その思いを伝える「倅せの黄色いハンカチ」。皆さんの想いがきっと届くと思います。

屋上イルミネーションプロジェクト

大清水中学校のPTA組織である「大清水の会」の運営委員の保護者の皆さんが、千羽鶴プロジェクトや倅せの黄色いハンカチプロジェクトの話聞いて、「私達も医療関係者や入院患者さんを応援したい」と言ってくれました。そして、運営委員として出来そうなことは？と考えてくださったのが「屋上イルミネーションプロジェクト」です。何人もの保護者の方に連絡して下さり、沢山のイルミネーションを集めて屋上のフェンスに取り付けて下さいました。

昼間ならば生徒たちが織り上げた「折り鶴」も屋上の「黄色いハンカチ」も見えていただけるでしょう。しかし、夜の時間帯は…。夜の時間帯こそが不安を増幅させたり、怖さを掻き立てたりするのではないのでしょうか。しかし、そんな夜の時間帯に大清水中学校の屋上を見てもらえれば、感謝と応援のイルミネーションが灯っています。そこには患者さんの不安な気持ちや医療関係者の疲れを少しでも癒すことができれば、というささやかな思いがあります。

そして、子どもたちを想う、保護者の願い・・・

生徒昇降口を入った一階のホールのガラスにたくさんの花が飾られ美しくデコレーションされました。コロナ禍で心がふさがちな子どもたちを励まし、少しでも明るい心持ちで毎日に臨んでもらいたい、という保護者の皆さんの思いを、運営委員の皆さんが心を込めて表現して下さいました。今年度も大清水の会（PTA）の活動はほとんど行うことができませんでした。“子ども達のために”、という保護者の温かく優しい思いで委員になって下さり活動しようと思ってくださっていたことと思います。そんな保護者の子ども達を思う優しい温かな気持ちが溢れるデコレーションです。

昇降口で靴を履き替え、教室に向かうその時に、そして一日の活動を終え家路につくときにデコレーションを見て、気持ちが「ほっ！」と温まる、そんな素敵な演出をして下さった保護者の皆様に感謝申し上げます。

プロジェクトと教育者の想い・・・

コロナ禍でよく言われていたのがエビデンスです。根拠や証拠といった意味です。感情ではなく科学的な根拠が必要だということです。私も理科教師の端くれとして生徒に「科学的なものの見方・考え方」の重要性について語ってきました、しかし、この科学的な根拠を得るためには、まず自分の心を動かさなければなりません。心を動かし、体を動かし、科学的な根拠を集めるのです。始まりは「やろう」とする心の動きです。

昨年は生徒会本部のメンバーによる取り組みでした。今回のこれらの取り組みは、すべての大清水中学校の生徒が関わり、職員と保護者が関わり、さらに中学校を支えてくださっている多くのパートナーや地域の学校ともつながりながら取り組みました。大清水中学校の取り組みが、生徒たちの取り組みが中学校の外に向かって染み出し、感謝する想いや努力する気持ちが広がっていくことを願っています。そして子ども達の心の中に、学校目標にもある、様々な人・モノ・ことに感謝しながら、決して諦めることなく努力を続け、目指す姿（世の中）、願うあした（未来）に近づくよう、心と体をはたらかせていく気持ちが育まれていくことを切に願っています。

2年にわたって続くコロナ禍。様々な制限や制約のなかで改めて強く感じたことがあります。それは、人は一人ではない、人は人の中で“つながりながら生きている”のだ、そして本能的に“つながりたい”と思っているということです。

今回のプロジェクトは医療関係者の皆さんや患者さんを応援するだけのものではありません。教育に携わる者としては、これらの取り組みを通じて子どもたちの非認知能力が高められ、大人になったときによりよく生きていく力が育まれる一助になることを心から願っています。他人のため取り組みではなく、実は自分自身を育てる大切な取り組みなのだと考えています。どうか、より多くの幸せが、より多くの人のもとに訪れますように。





